注　意　報

7　病　第　19　号
令和7年8月20日

関係各位

京都府病害虫防除所長
（公　印　省　略）

病害虫発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

◇

病害虫発生予察注意報第４号

1　作 物 名　　**ネギ等野菜類、豆類、花き類**
2　病害虫名　　**シロイチモジヨトウ**
3　発生地域　　**府内全域**
4　発生時期　　**８月～**
5　発 生 量　　**平年比多い**
6　注意報発令の根拠

（１）８月中旬に実施したネギの巡回調査におけるシロイチモジヨトウ（写真）の発生量は、平年比多かった（＋）（表）。

（２）フェロモントラップへの誘殺虫数（７月第３半旬～８月第２半旬の合計値）は、亀岡市では 34.7 頭（例年値 54.3 頭）と例年比やや少なかったが、京田辺市では 149.3 頭（例年値 47.9 頭）、京丹後市で 139.0 頭（平均値 55.7 頭）と例年比多かった（＋）（図）。

（３）大阪管区気象台８月１４日発表の近畿地方１か月予報によると、気温は平年比高く（＋）、降水量は平年比少ない（＋）と予想されており、今後も本種が増殖しやすい気象条件が続く見込みである。

表　巡回調査結果(ネギ*、シロイチモジヨトウ、８月中旬)

調査項目	本年(平年比)	平年
幼虫数(頭/株)	0.240 （多）	0.036
寄生株率(%)	14.7 （高）	1.8
発生ほ場率(%)	66.6 （高）	22.6

*葉長40cm未満の小株での調査

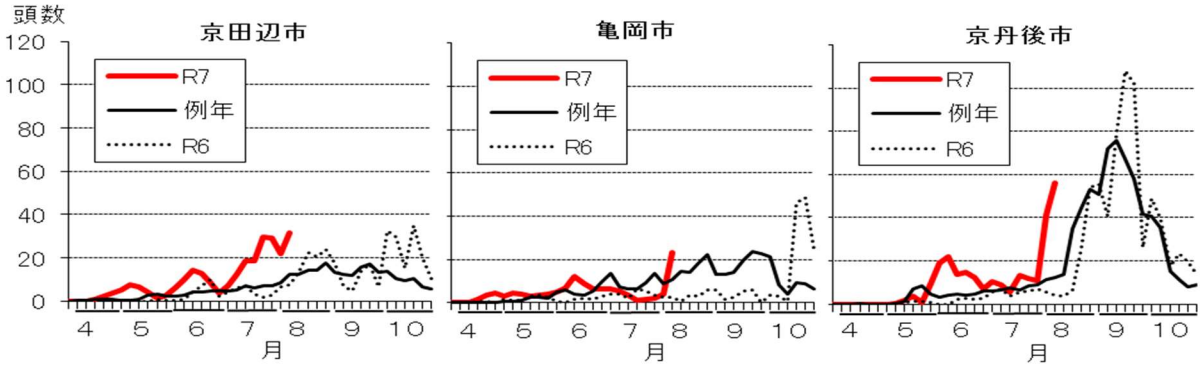

図　フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺状況

写真　ネギでのシロイチモジヨトウの卵塊（左）幼虫（中）、被害株（右）

２．防除上の留意事項

（１）齢が進んだ幼虫では農薬の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除が重要である。

（２）被害葉及び収穫残さが本種の発生源となるので、一箇所にまとめて積み上げ、虫の拡散を防ぐため、表面をビニルで被覆する等、適切に処分する。

（３）寄主範囲が広く、ネギ等の野菜類、豆類および花き類を加害するので注意する。

（４）技術資料「シロイチモジヨトウ防除における化学農薬使用回数の削減マニュアル（2025 年）」
https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/shiroichimojiyotou-manual_202502.pdf

注意：農薬の使用に当たっては、ラベルおよび最新の使用方法や注意事項を確認する。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意する。